

巻頭言

2025年新春のご挨拶

一般財団法人 日本建築総合試験所
理事長 川瀬 博



2025年の新春を迎え、皆様方には平素より当法人の諸事業に対しまして、ご理解とご高配を賜っておりますことを深く感謝いたします。

さて昨年はGBRC創立60周年の年でありましたので、その記念事業として10月2日に記念セミナーを開催いたしました。おかげ様で多数の方々にご来場いただき、盛況のうちにこれを終えることができました。その際に特別講演を頂きました建築研究所の澤地孝男理事長と京大生存圏研究所の五十田博教授には改めて御礼申し上げます。

そのセミナーにおいて主催者挨拶として、60年間のGBRCの歩みを振り返るとともに、2030年までの中長期計画として2022年に我々が策定しました「GBRCビジョン&アクションプラン2030」の紹介をさせていただきました。その実現に向けた進め方として、まず、既成概念に捉われないマインドを醸成し、次に、変容する社会のニーズを的確にキャッチし、そして、チャレンジするに値する事業展開を積極的に進める、という3ステップの基本方針を提示させていただきました。

振り返って見ますと、その発展の歴史の中でGBRCが果たして来た役割は日本社会の変遷とともに大きく変容してきたことがわかります。従ってGBRCの今日あるこの姿はその間の先人達のダイナミックに変化する社会的ニーズに対応しようとしてきた不断の努力の結晶であると言えます。しかしながら、「的確にニーズをキャッチする」と言うのは簡単ですが、実行することは実に困難な作業です。何故なら、提供されたことのないサービスを新規に始めようとした際には常に「急行列車のパラドックス」に直面するからです。

「急行列車のパラドックス」とは、急行列車が止まらないローカルな駅の乗客にとって急行列車を止めてほしいというニーズは常にあるのに、その駅に調査に向いても急行列車の到来時刻に急行列車を待っている乗客は一人もいないという話です。つまり現時点で存在しないサービスのニーズは顕在化されないという当たり前の事実を指摘したものです。しかしそれは我々に、新たな事業展開を図るためには誰も顧客がいないというリスクを冒してでもチャレンジしていくしかない、ということを教えてくれています。

2025年5月29日には試験研究センター初の「オープン・ラボラトリ」と称した合同見学会を開催します。これも上記の3ステップの一環として実施するものです。是非お時間を作ってご来場いただき、その眼でGBRCが実施している多様な試験の全容をご確認いただければと思います。そしてその際に「こういうことに困っているのだが?」「こういう試験はできないものか?」といった潜在的なニーズを投げかけていただければ幸いです。

本年も役員が丸一となり、お客様のご満足と価値創造に向けて鋭意努力してまいりますので、より一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。